

2022年(令和4年)2月3日 木曜日

逸話など交え解説 「頭痛外来ガイド」

東御の研究所名誉所長
武藤芳照さんらが出版



多くの登場し、やや複雑だが、
頭痛に悩む人にとっては役立つ情報だろう。

「あの人も」の人も、「みんな頭が痛い」の項は、武藤名誉所長が担当。推測、推察を交えての考察もあるが、歴史的な偉人を違った角度から知ることができ興味深い。

コロナ禍で、△マスクによる酸化炭素過多状態が片頭痛を起こす△マスクの耳掛けによる首のコリが緊張型頭痛の原因に△テレワーク頭痛など、タイムリーな記述も。

「まちがつた頭痛の診断・治療」について、症例に基づいて具体的に報告する。たかが頭痛、されど頭痛である。しっかりととした診断の大切さを痛感させられる。

治療では、最新情報を交えて解説。ことに薬物療法については、予防薬も含めて詳しく述べて解説。ことに薬物療法について詳しく取り上げている。薬品名が

日本編では、後白河法皇、織田信長、夏目漱石、南方熊楠、樋口一葉、平塚らいとう、芥川龍之介、夏目雅子らを紹介。世界編はハイドン、モーツアルト、ベートーベン、メンデルスゾーン、ワーグナー、チャイコフスキイと作曲家が目につく。その他、ジエームズ・ワット、ダーウィン、ニースラ、そうそうたる人々が登場する。

新興医学出版社刊、A5変型判、1608頁。3630円。

身体教育医学研究所(東御市)の武藤芳照・名誉所長(東京大名誉教授)が「頭痛外来ガイド」(写真)を出版した。

ガイドは、頭痛全般についての分かりやすい解説に加え、コロナ禍に伴う頭痛、古今東西の著名人と頭痛の逸話、文学作品に見る頭痛も収録。幅広く親しみやすい内容になっている。丹羽潔・東京頭痛クリニック理事長との共著。

頭痛の医学的な解説は、丹羽理事長が担当。国際頭痛分類第3版によると頭痛は少なくとも367種類にものぼる。だが、緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛で全体の95%を占めるという。

同著では、これら三大頭痛さらに鎮痛薬の使い過ぎによる薬物乱用頭痛、第四の頭痛とされる後頭神経痛などを紹介。三大頭痛などには、一般市民向けのセルフチェックも掲載している。さらに子どもたちの頭痛の特徴、くも膜下出血に象徴される危険な10の頭痛